

岩手労働局発表  
令和元年6月28日

【照会先】  
岩手労働局労働基準部健康安全課  
課長 高橋 友行  
課長補佐 和野内 利幸  
(電話) 019 - 604 - 3007

## 職場における熱中症にご注意を！

～ 7月 は「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」の重点取組期間です～

熱中症の発生を防止するため、厚生労働省では「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」を4月から展開しています。

これからの時期は、県内においても気温や湿度が高い中で働く機会が多くなり、例年、事業場で多くの熱中症の被災者が発生しています。

平成30年の発生状況をみると、平成29年の70件に対し、約3.5倍の246件発生し、7月～8月に全体の89%が発生しました。(別添1参照)

また、平成6年から平成28年の間に熱中症で亡くなった8人のうち、6人が7月～8月に発生しています。(別添2参照)

このため、厚生労働省では、熱中症が増加する7月を重点取組期間とし、以下の事項を実施するように事業場に対して指導を行っているところです。(別添3参照)

各事業場においては、これらの事項への積極的な取組により、労働者の熱中症予防対策を徹底していただくようお願いします。

### 熱中症予防対策として実施すべき主な事項

本格的な暑さが来る前に暑さ指数測定器を準備し、暑さ指数(WBGT指数、別添4参照)を把握しましょう。指数が大きい場合は各種の低減措置を実施してその効果を改めて確認し、必要に応じ追加対策を行いましょ

う。特に梅雨明け直後は、暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。

水分、塩分を積極的にとりましょう。(水分は暑くなる前に飲むと効果的です。)睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、朝食をきちんととりましょう。熱中症のリスクについて、重点的に教育を行いましょ

う。意識がはっきりしないなどの異常を認めたら、すぐに救急車を呼びましょ

## 参考：県内の熱中症の発生状況のポイント

### 1 平成30年の発生状況（別添1参照）

#### ア 月別発生状況

7月～8月に全発生件数の89%が発生しています。

#### イ 時間帯別発生状況

午前11時台と午後2時～4時台に多く発生しています。

#### ウ 業種別発生状況

建設業が57%を占めています。

#### エ 場所別発生状況

屋外が全体の76%を占めていますが、製造業では84%が屋内で発生しています。

#### オ 年代別発生状況

20代が最も多く、50代、40代、30代、60代と続いています。

#### カ 休業日数別発生状況

休業0日が70%となっており、休業4日以上は9%となっています。

### 2 平成23年～30年の熱中症発生状況（別添5参照）

#### ア 年別発生状況

平成23年～29年は、41件から125件の間で増減していましたが、平成30年は急激に発生件数が増加し、平成23年以降で最も多かった平成27年の発生件数125件の約2倍となる246件となりました。

#### イ 月別発生状況

7月～8月に全発生件数の84%が発生しています。

#### ウ 時間帯別発生状況

午前11時台と午後2時～3時台に多く発生しています。

#### エ 業種別発生状況

建設業が半数以上の54%を占め、次いで製造業が15%となっています。

#### オ 場所別発生状況

屋外が全体の74%を占めていますが、製造業などでは、高温な屋内の作業場などにおいて多く発生しています。

#### カ 年代別発生状況

20代が最も多く、次いで50代、40代、30代、60代と続いています。年代による差があまり見られません。

#### キ 休業日数別発生状況

休業0日が68%となっており、重篤な容態となるケースは少ないですが、死亡を含む休業4日以上が9%となっています。

### 3 死亡災害発生状況（平成6年～平成28年）（別添2参照）

#### ア 年別発生状況

平成6年から28年までの23年間で、8人の労働者が熱中症を原因として亡くなっており、平成22年以降の7年間だけでも5人が亡くなっています。

#### イ 月別発生状況

発生月は、7月が4人で半数を占め、次いで8月の2人となっています。5月に亡くなった事例もあります。

#### ウ 業種別発生状況

「建設業」が4人で半数を占め、次いで「商業」の2人となっています。

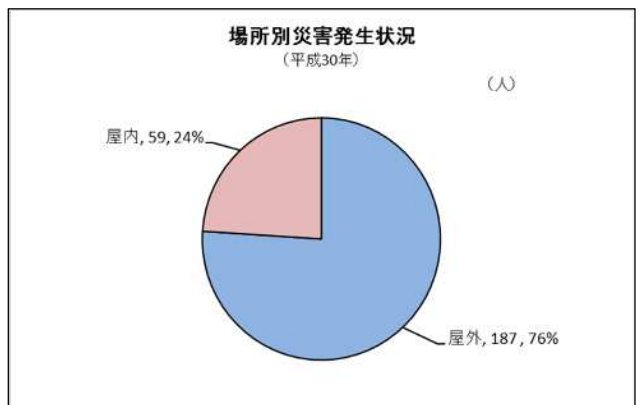
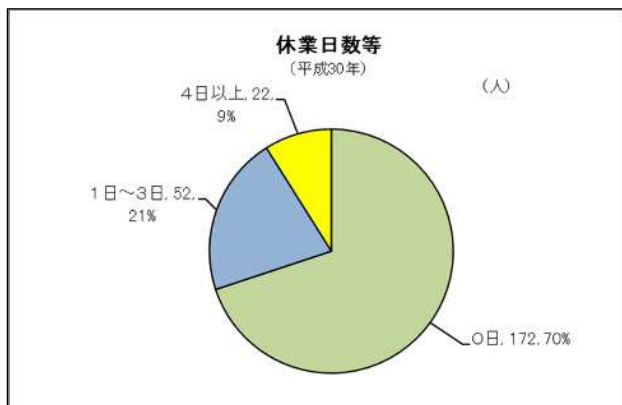
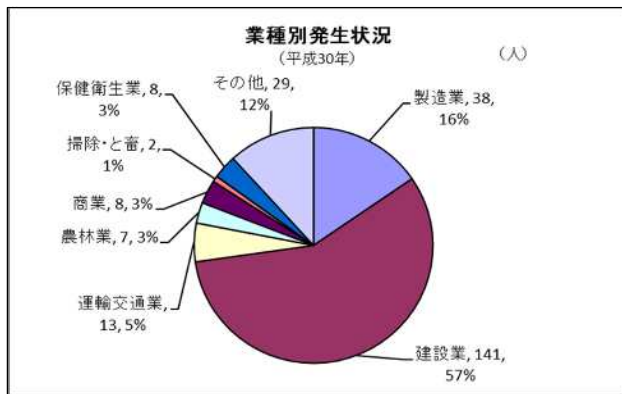
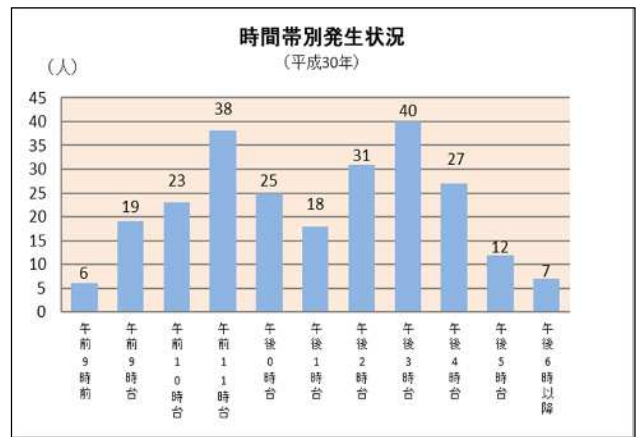
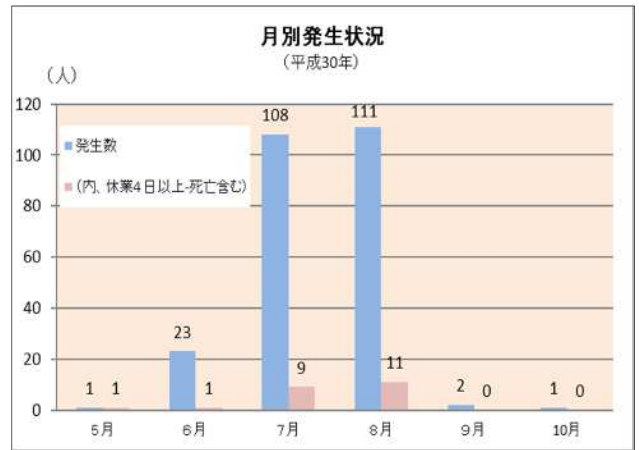
#### エ 場所別発生状況

屋外での作業で多く発生しています。

#### オ 年代別発生状況

20代、30代、50代、60代が2人ずつとなっています。

# 岩手県内の職場における熱中症発生状況（平成30年）



## 熱中症による死亡災害発生状況（平成6年～平成28年）

岩手労働局

番号	署別	業種	発生年	発生月	曜日	性別	年代	災害発生の概要
1	盛岡	建設業 (鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業)	平成6年	8月	水	男	60代	炎天下でマンション工事のスラブ鉄筋配筋作業中、日射病となり治療を受けていたが、12日後に死亡した。
2	一関	林業	平成11年	7月	木	男	20代	下刈り作業中、昼時間になっても休憩場所に戻らないので作業場所に見にいったところ、意識混濁で発見され、病院へ搬送したが、同日死亡した。(推定原因:熱中症)
3	盛岡	建設業 (その他の建設業)	平成13年	5月	火	男	60代	送電線に近接する支障木の伐木を行っていたところ、熱射病により死亡した。
4	二戸	建設業 (その他の土木工事業)	平成22年	7月	月	男	50代	橋脚の修繕工事現場において、休憩時間となり休憩場に行く際に、被災者が余った材料を抱えて階段を降りていたところふらついていてため、休憩場に寝かせて体を冷やす等の措置を行っていたが、その後、被災者が道路の方へ歩き道路上に倒れたことから、救急車で搬送したが、熱中症により死亡した。
5	宮古	商業	平成22年	7月	水	男	50代	故障したトラックの修理のため走行後のエンジンの上に跨った状態の高温下で故障箇所のアーク溶接を行い、作業を終えて事務所に戻り自分の席に座ったところ、急に呼吸を乱して意識を失い病院に搬送されたが熱中症により死亡した。
6	一関	建設業 (木造家屋建築工事業)	平成24年	7月	火	男	30代	家屋の基礎の型枠加工組立て作業において、休憩中の被災者がふらついていてため現場内で休ませていたところ、被災者の呂律が回らなくなり痙攣し始めたため、救急車で病院に搬送したが、翌日に死亡した。
7	宮古	接客娯楽業	平成27年	6月	金	男	30代	海外研修中、40度以上の高温環境下で熱中症により死亡した。
8	花巻	商業	平成28年	8月	日	男	20代	屋外の展示場における洗車・清掃等の作業中に頭痛を発症し、帰宅後、就寝したが、死亡した状態で翌朝発見され、死因は熱中症とされたもの。

令和元年5月末日現在

# STOP!熱中症

令和元年5月～9月

## クールワークキャンペーン

- 熱中症予防に取り組みましょう -

平成30年の県内の職場における熱中症被災労働者数は246人で、平成29年の約3.5倍となり、平成23年以降で最も被災者数の多かった平成27年の125人と比べても約2倍となりました。

厚生労働省では、労働災害防止団体などとの連携の下、職場における熱中症の予防のため今年も「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、重点的な取組を進めます。各事業場でも、事業者、労働者が協力して、早めに熱中症予防対策の準備を進めましょう!

実施期間:令和元年5月1日から9月30日まで



H31.4月 準備期間	5月	6月	7月 重点取組期間	8月	9月
----------------	----	----	--------------	----	----

← キャンペーン期間 →

事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。  
確実に実施したかを確認し、 にチェックを入れましょう!



準備期間(4月1日～4月30日)

暑さ指数(WBGT値)の把握の準備

作業計画の策定等

設備対策の検討

休憩場所の確保の検討

服装等の検討

教育研修の実施

熱中症予防管理者の選任及び責任体制の確立

緊急事態の措置の確認



キャンペーン期間(5月1日～9月30日)

暑さ指数(WBGT値)の把握

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を測りましょう。



準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定した暑さ指数に応じて次の対策を取りましょう。

暑さ指数を下げるための設備の設置

休憩場所の整備

涼しい服装等

作業時間の短縮

熱への順化

水分・塩分の摂取

健康診断結果に基づく措置

日常の健康管理等

労働者の健康状態の確認

異常時の措置

重点取組期間(7月1日～31日)

暑さ指数の低減効果を改めて確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。

特に梅雨明け直後は、暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。

水分、塩分を積極的にとりましょう。

各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんととりましょう。

期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。

少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、すぐに病院に運ぶか救急車を呼びましょう。



岩手労働局・労働基準監督署



# WBGT 指数を把握して 熱中症を予防しましょう！



## 熱中症は場合によっては死亡に至る、大変危険な障害です！

「熱中症」とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、循環調節や体温調節などの体内の重要な調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称であり、めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温等の症状が現れます。

職場における熱中症による死傷者数の推移（平成19～28年）

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



過去10年間（平成19～28年）の職場での熱中症による死亡者数、及び4日以上休業した業務上疾病者の数（以下、合わせて「死傷者数」という。）をみると、平成22年に656人と最多であり、その後も400～500人台で推移しています。平成28年の死亡者数は12人と前年に比べ17人減少したものの、死傷者数は462人と、依然として高止まりの状態にあります。

# WBGT 指数計で作業現場の暑さ指数 [WBGT 値] を CHECK! 熱中症リスクを把握して、効果的な予防策を打ちましょう!

## STEP1 WBGT 指数計を正しく使い、WBGT 値を計測します。

必ず『黒球』付きの JIS 規格適合品を選びましょう。日射や地面からの照り返し等の『輻射熱』をきちんと測ることが肝要です。吊り下げて測る場合は特に、黒球が陰にならないように注意してください。

WBGT 指数計の使用例

『屋内または屋外で太陽照射のない場合』  
『屋外で太陽照射のある場合』で条件が異なります。切り換え設定がある場合は必ず設定しましょう。

## STEP2 衣類の組み合わせにより、補正値を加えます。

衣類の組み合わせにより WBGT 値に加えるべき補正値

衣類の種類	WBGT に加えるべき補正値 (°C)
作業服 (長袖シャツとズボン)	0
布 (織物) 製つなぎ服	0
二層の布 (織物) 製服	3
SMS ポリプロピレン製つなぎ服	0.5
ポリオレフィン布製つなぎ服	1
限定用途の蒸気不浸透性つなぎ服	11

(ACGIH 2008 化学物質と物理因子のTLVs より引用)

※上記の補正値は、一般にレベルAと呼ばれる完全な不浸透性防護服には適用できない。重ね着の場合に、個々の補正値を加えて全体の補正値とすることはできない。つなぎ服には軽い下着の着用が想定されており、二重の重ね着などの場合はこの補正値は適用できない。

暑い日・時間帯の作業開始時や、身体作業強度が“大”である時、特殊な作業服を着用する時、移動を伴う作業等で環境が変化する現場では、WBGT 値をこまめに計測し、基準値と比較することが必要です。

## STEP3 WBGT 熱ストレス指数の基準値表を見て、熱中症リスクを確認します。

WBGT 熱ストレス指数の基準値表 (各条件に対応した基準値) ※基準値を超えるといつでも熱中症が発生するリスクがあります。

区分	例	WBGT 基準値			
		熱に順化している人		熱に順化していない人	
0 安静	安静	33°C		32°C	
1 低代謝率	楽な座位; 軽い手作業 (書く、タイピング、描く、縫う、簿記); 手及び腕の作業 (小さいペンチツール、点検、組立てや軽い材料の区分け); 腕と脚の作業 (普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作) 立位; ドリル (小さい部分); フライス盤 (小さい部分); コイル巻き; 小さい電気巻き; 小さい力の道具の機械; ちょっとした歩き (速さ 3.5 km/h)	30°C		29°C	
2 中程度代謝率	継続した頭と腕の作業 (くぎ打ち、盛土); 腕と脚の作業 (トラックのオフロード操縦、トラクター及び建設車両); 腕と胴体の作業 (空気ハンマーの作業、トラクター組立て、しっくい塗り、中くらいの重さの材料を断続的に持つ作業、草むしり、草掘り、果物や野菜を摘む); 軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする; 3.5 ~ 5.5 km/h の速さで歩く; 鍛造	28°C		26°C	
3 高代謝率	強度の腕と胴体の作業; 重い材料を運ぶ; シャベルを使う; 大ハンマー作業; のこぎりをひく; 硬い木にかんなをかけたりのみで彫る; 草刈り; 掘る; 5.5 ~ 7 km/h の速さで歩く。重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする; 鋳物を削る; コンクリートブロックを積む。	気流を感じないとき 25°C	気流を感じるとき 26°C	気流を感じないとき 22°C	気流を感じるとき 23°C
4 極高代謝率	最大速度の速さでとても激しい活動; おのを振るう; 激しくシャベルを使ったり掘ったりする; 階段を登る、走る、7 km/h より速く歩く。	気流を感じないとき 23°C	気流を感じるとき 25°C	気流を感じないとき 18°C	気流を感じるとき 20°C

注1 日本工業規格 Z8504、1999 年 (人間工学-WBGT (湿球黒球温度) 指数に基づく作業者の熱ストレスの評価-暑熱環境) 附属書 A

「WBGT 熱ストレス指数の基準値表」日本規格協会刊を基に、同表に示す代謝率レベルを具体的な例に置き換えて作成した。

注2 熱に順化していない人とは、「作業する前の週に毎日熱によく露されていない人」をいう。



# 岩手県内の職場における熱中症発生状況(平成23年～平成30年)

岩手労働局

